

水玉模様に対する綿プリントとCGによる試料との比較

文化女大・院 ○李 有鎮 成瀬 信子

目的 水玉模様を色と大きさでどのようにイメージが違うかをすでに CG による紙試料について調べて、水玉の大きさと特に色により違うイメージを与えているという結果を得ている。しかし、実際、多くは綿プリントととして扱うので、今回は CG による紙試料と綿プリントの評価がどのように違うかを調べた。

方法 CG による紙試料と同一条件の水玉の大きさを 1.6cm、1.2cm、0.8cm とし、色は青系、黄系、赤系として、一定条件で水玉を配置した綿ブロードに型染めした水玉模様を試料とした。官能検査は 2 点比較法で紙試料に対する綿プリントの評価の差の違いを調べた。評価項目としては色や模様の大きさに対する視覚的評価項目、さらに、それらを総合的に受ける評価項目、また、材質感や主観的評価項目など計 28 項目とし 5 段階評価とした。被験者は女大生 30 名で、午前 10 時から午後 3 時の間の自然光下で行った。

結果 1.全体的に「女性的」、「やわらかい」、「ふくらみがある」などは紙試料より布の方が評価が高かった。黄系は明度が高いのでこれらの評価が紙試料より綿プリントの評価が比較的大きかった。2.赤系は明るい、暗い、あざやかなど、色に関しては差が大きく見られたが、元々の色の差から来るもので、また青の明るさも布、紙の本来の色の差から来ている。

これらのことから水玉模様のデザインとしての評価は布のプリントで行わなくとも CG によるデザインで評価をしてもいいのではないかと示された。